

## 目 次

はしがき

### Introduction 法学の学び方 ..... 生田勝義 1

I 法とは何か .....	2
1 社会常識と法律     2 社会・ルール・規範     3 社会規範と国 家法     4 規範や法の歴史性     5 法規範の種類	
II 法源と国家法の分類 .....	8
1 法 源     2 国家法の分類	
III 法の実現 .....	11
1 法的紛争の自主的解決     2 法的紛争の公的権威による解決 3 裁判外紛争解決手続     4 刑事裁判と行政処分	

### コラム 「白黒をつける」ことの困難さ ..... 河野恵一 13

### Chapter 1 財産取引と法 I 契約 ..... 松本克美 15

I 契約類型 .....	16
1 典型契約     2 非典型契約	
II 契約の成立・効果・終了 .....	17
1 契約の成立     2 契約の効果     3 契約違反の効果——債務不 履行	
III 契約の主体 .....	23
1 権利能力・人・法人     2 意思能力     3 行為能力     4 代 理	
IV 契約の有効性 .....	26
1 意思の不存在（欠缺）・瑕疵ある意思表示     2 法律行為の内容	

## Chapter 2 財産取引と法Ⅱ 不動産と動産・金融取引

.....松本克美	28
I 物権と法.....	28
1 不動産と動産／物権と債権	2
2 物権の種類	
II 動産の物権変動と即時取得.....	31
III 不動産の物権変動.....	32
IV 不動産の賃貸借をめぐる法律関係 .....	33
1 賃貸人・賃借人の権利・義務	2
2 転貸借関係	3
3 賃貸目的	
物の修繕・賃貸借契約終了時の原状回復	
V 金融取引と法.....	35
1 物的担保	2
2 人的担保	3
3 責任財産の保全	

## Chapter 3 権利侵害の救済.....松本克美 41

I 権利侵害行為の排除.....	41
1 物権の請求権の活用	2
それ以外の権利に基づく差止め	
II 不法行為責任の成立要件 .....	43
1 概 説	2 故意・過失
3 権利ないし法益の侵害	
III 損害賠償.....	45
1 因果関係	2 相当因果関係論
3 損害額の算定	
IV 特殊な不法行為 .....	47
1 他人の行為に対する不法行為責任	2 危険な物に対する不法行
行為責任	3 特別法上の不法行為責任

## Chapter 4 家族法の考え方.....松本克美 53

I 婚姻法 .....	53
1 婚姻の成立	2 婚姻の効果
効果	3 離婚の成立
4 離婚の	
II 親子法 .....	58
1 実親子関係	2 養親子関係
3 生殖技術の発展と親子法	
III 相続法 .....	61
1 法定相続	2 遺言相続

<b>Chapter 5 近代民法とその現代化</b>	.....	松本克美	.....	64
I 民法の体系と歴史	.....		64	
1 民法の規律対象と体系	2 民法の歴史			
II 近代民法の原則	.....		67	
III 近代民法の修正と現代化	.....		68	
1 近代民法の修正	2 民法の現代化			
 コラム 歴史の中の相続——江戸時代を中心にして				..... 大平祐一 75
<b>Chapter 6 社会法の考え方</b>	.....	佐藤敬二	.....	79
I 社会法と生存権理念	.....		79	
1 労働者・要保障者	2 社会法と生存権理念			
II 労働団体法・集団的労働関係法	.....		81	
1 労働組合活動の法的保護	2 労働三権	3 団結権	4	
団体交渉権	5 団体行動権（争議権）	6 不当労働行為		
III 労働保護法・個別的労働関係法	.....		85	
1 個別労働者の保護	2 労働憲章	3 労働契約	4 労働	
条件	5 労働環境	6 多様な雇用・就業形態	7 基準監督	
IV 社会保障法	.....		91	
1 社会保障法の原則	2 公的扶助法（生活保護法）	3 社会		
福祉サービス法・社会手当法	4 年金保険法	5 医療保険法		
6 高齢者医療確保法・介護保険法				
 コラム 復讐をいかに制御するか				..... 河野恵一 107
<b>Chapter 7 刑法の基本原則</b>	.....	生田勝義	.....	96
I 刑法についての基本的な考え方	.....		96	
1 刑法と道徳の関係	2 モラリズムと侵害（行為）原理	3 「被		
害者なき犯罪」・不快原理	4 刑法の機能			
II 刑法の基本原則	.....		101	
1 謙抑主義	2 罪刑法定主義	3 実体的デュー・プロセス		
4 刑罰権と国家主権				

<b>Chapter 8 犯罪と刑罰</b>	生田勝義	109	
I 犯罪の類型と構成要素		109	
1 犯罪の類型とその意味	2 犯罪の構成要素		
II 犯罪阻却事由		115	
III 刑罰の種類と理論		117	
1 刑罰の意味と種類	2 刑罰に関する理論——正当化根拠など		
3 刑罰をめぐるその他の問題			
<b>Chapter 9 刑事司法手続と人権</b>	生田勝義	122	
I 刑事司法作用の特徴		122	
1 刑事司法作用と行政警察作用のちがい	2 強大な強制力と人権保障		
3 裁判への市民参加——陪審裁判と裁判員裁判			
II 裁判を受ける権利		125	
1 無罪の推定	2 刑事裁判の公平・迅速・公開	3 証人審問権	
4 弁護士依頼権			
III 強制手続と人権保障		128	
1 令状主義	2 理由開示請求権と弁護人依頼権	3 不利益供述強要の禁止	
4 自白法則	5 一事不再理	6 刑事補償	
IV 犯罪被害者等の権利		131	
1 伝統的な刑事裁判觀	2 被害者保護の動き		
<b>Chapter 10 日本国憲法と権力の分立</b>	倉田 玲	134	
I 自由主義と民主主義		134	
1 自己決定と合意	2 人類普遍の原理		
II 立憲主義の最高法規		137	
1 市民革命の成果	2 近代の立憲主義	3 天皇主權の時代	
4 なぜ最高法規か	5 権力分立の構造		
<b>Chapter 11 基本的人権と平和の保障</b>	倉田 玲	152	
I 人権保障		152	
1 現代の人権	2 人権の特性	3 人権の主体	4 人権の

限界	5 人権の類型	
II 平和主義		166
	1 平和の権利	2 戦争の放棄
<b>Chapter 12 国際社会と法 平和と人権</b>		徳川信治
I 国際法と国際社会における関心事——戦争と平和		171
II 国際社会でも大切なものの——平和と人権の実現に向けて		172
	1 國際人権の歴史	2 第二次世界大戦勃発前における平和と個人の権利
	3 第二次世界大戦と国連の誕生——平和と人権の不可分性	
III 国際人権章典の誕生		177
IV 国際的な人権監視——いかに人権を実施・実現していくか		179
	1 国連による人権実施措置	2 人権条約上の実施措置
V 国際人権章典の影響		181
	1 個別的人権条約	2 地域的人権条約
	3 国内憲法への影響	4 国際社会にみる新しい人権——第三世代の人権
VI 私たちの生活の中に人権を		183
<b>Chapter 13 法の適用と解釈</b>		生田勝義
I 法の適用について		185
	1 法の適用とは	2 法的推論と法的三段論法
	3 法適用の正当性	4 法適用の重畠性
II 法の解釈について		190
	1 法解釈の手法・技法	2 法解釈の目的・対象
	3 法の継続	4 法解釈の主觀性と客觀性



## トピカ目次

特定物ドグマ (22) 民法94条2項の類推適用論 (33) 民法典起草の3博士について (66) 使用者による便宜供与 (83) 量刑論 (119) 代用監獄と取調べの可視化 (130) 他害原理 (harm principle) (138) 日の丸と君が代 (163) 権利としての平和 (167) 国際法と日本国憲法98条 (178) 日本と世界人権宣言 (183) 法典の構造と解釈の特徴 (192)